

指定校番号	30005	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立三ツ城小学校	校長	林 健一郎	生徒指導主事	山名 慶幸
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『凡事徹底』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「連帯感・相手意識」	2	「主体性・責任感」	1	「自己指導能力」	3

取組のねらい『キーワード：主体性・自己指導能力』

本校の児童は「決められたことは守る」「言われたことはやる」というような受動的な面がある。そこで、児童自身が学校生活を見つめ直し、学校や学級の課題を考え、よりよい学校生活を送るために必要なことを見出し取り組んでいく活動を通して、主体性を育み、自己指導能力を高める。

取組の具体的内容『キーワード：凡事徹底で学校生活をより良くしよう』

昨年度から「凡事徹底」を掲げ、身の回りの様子を考えて、学年単位で話し合い、目標（取り組む内容）を決めて取り組んでいる。今年度は、より児童の主体性を重視して、取組を行っていくことにした。

今年度の各学年の「凡事徹底」についての取組は、6年生「挨拶のレベルアップ」、5年生「廊下歩行の徹底」、4年生「全員参加の外遊び（体力向上に向けて）」、3年生「発表・返事は最後まで、はっきりと」、2年生「静かに、黙って集合」、1年生「さ・し・す・せ・そうじ」となった。1～4年生は学年だけの取組だが、5、6年生は、学年はもちろん、全校へも呼びかけ、取組を行っている。

6年生は、4月のチャレンジ（生活目標）「気持ちのよい挨拶をします」に合わせて、挨拶の向上を全校に呼びかけた。手作りのタスキをかけた6年生が毎朝正門で、登校してくる児童に大きな声で挨拶をしていた。そして、その挨拶運動は4月だけに終わらず、毎朝交代しながら、現在も続いている。



5年生は6月のチャレンジ「歩いて静かに行動します」に合わせて、廊下歩行の徹底を全校に呼びかけた。大休憩と昼休憩に手作りのタスキをかけ「廊下歩行見守り隊」として廊下歩行を呼びかけながら、校舎内を見回った。そして、安全に歩行できていた学年を校内放送で紹介し、廊下歩行の意識を高めた。6月以降、廊下を走る児童が増えた場合、5年生に働きかけると、自主的に「廊下歩行見守り隊」の活動を行った。

取組の課題・創意工夫『キーワード：生活委員会を生かす』

これまで、毎月のチャレンジは教職員（生徒指導部）が提案して取り組んでいたが、今年度から、生活委員会の活動の一つとすることにした。これも児童の主体的活動に繋げるものであるが、毎月のチャレンジ（月ごとに挨拶・返事、無言掃除、廊下歩行、履物整頓を繰り返している）について、どう取り組んでいくのかを考えたり、全校への発表を行ったりして、取組を進めた。

5，6年生の「凡事徹底」の取組も時間が経ってくると「慣れ」や「マンネリ化」から、効果が薄まってきた。そこで、生活委員会としての取組を提案することにより、「慣れ」や「マンネリ化」を防ぐようにした。「挨拶」については、9月と1月のチャレンジに合わせ、挨拶のよい児童に、生活委員、教職員、管理職が名札にシール（三者で違った色）を貼ってやり、その児童は「挨拶大使」として「よい挨拶を広める」という「挨拶大使」の取組を提案して実行した。また、「廊下歩行」については、11月のチャレンジに合わせ、「廊下や階段、教室、ワークスペースを走っていて注意されたら、立ち止まって30数える」という「ストップ30運動」を提案して取り組んだ。



取組の成果（効果）『キーワード：主体的な活動で課題解決』

6年生が毎朝正門で挨拶運動を始めた頃、挨拶の声が大きくなり、進んで挨拶をする児童も増えてきた。しかし、よい時と悪い時があり、慣れてくると少しずつ悪くなっていく場合もあった。こうした時に生活委員会が「挨拶大使」の取組を行ったことで、「挨拶をしよう」という気持ちを再度喚起することができた。この双方の取組により挨拶への意識が少しずつ高まっていると考えられる。

「廊下歩行」も5年生の「廊下歩行見守り隊」と生活委員会の「ストップ30運動」の両方の取組を通して、年度当初に比べて、廊下を走る児童が減った。

今年度の取組を通して、5，6年生は「学校を良くしていくために、自分たちの役割を最後まで果たすことができた」「自分たちが取り組んで、学校の課題を改善できた」という思いを日記等に書いており、より主体的な活動になってきたと考える。1～4年生も「自分たちの課題に継続して取り組むことができた」という思いをもつことができた。

今後の展開『キーワード：自分たちの学校は自分たちの手で』

このように、「自分たちの課題を見付け、改善していく」活動や「自分の役割を自覚し、最後までやり遂げる」取組等を継続し、広げていくことにより、「学校をより良くしていくのは自分たちである」という意識をさらに高めていくことができると考える。

今回取り上げた取組の他にも、昨年度から、「いじめゼロ」に向けて、児童と担任が話し合い、学年ごとに「学年いじめゼロ宣言」をつくったり、児童会としていじめ防止の取組を行ったりしてきている。今年度の児童会の取組は「いじめゼロ川柳をつくろう」となり、全校で取り組んだ。最終的に選ばれた川柳「いじめゼロ 仲間と築き 笑顔さく」を横断幕にして校内に掲げることになっている。

どの取組もまだまだ教職員が関わる場面が多いが、継続していく中で、徐々に児童が行うことを増やしていき、名実ともに「児童主体の取組」としていきたい。

他教科との関わり『キーワード：主体性・自己指導能力』

特別の教科 道徳とは全般的に関わりがあるが、特に【善悪の判断，自律，自由と責任】，【規則の尊重】，【よりよい学校生活，集団生活の充実】との関わりは非常に大きい。また、本校は算数科において、主体的な学びを生み出す単元開発やペアトーク，グループトークを活用した対話的な学びの工夫等の研究・実践を行っている。こうした学習も「児童の主体的な活動」と関わると考える。